

107. 伐採時期によるコジイ原木の含水率と シイタケ菌の接種時期について

林業試験場九州支場 ○日 高 忠 利
温 水 竹 則

1. まえがき

低質広葉樹の利用によるシイタケ栽培の技術を確立するため、コジイ原木の含水率の時期的変化と、ホダ付きについて実験した。含水率の変化は伐採と同時に枝条を取り除き、日陰地においたものが含水率の減少が少なく、ホダ付きも良好で、接種時の含水率は100%内外であることを報告したが*、さらにコジイとクスギ原木の伐採時期による含水率と接種の時期について調査した。

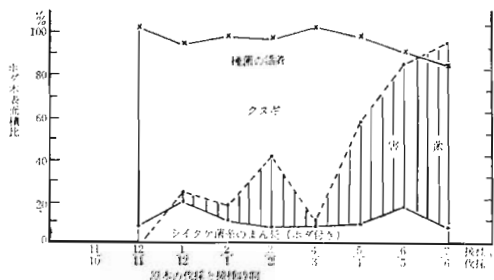
2. 試験方法

供試木は18年生コジイと15年生クスギである。原木の含水率の調査は昭和44年10月から45年6月まで、原木を毎月伐採して含水率を測定した。含水率は絶乾法により、材の絶乾量に対する%すなわち乾量基準含水率で求めた。種菌の接種は、伐採と同時に枝条を除き照度1,000ルクス内外の陰地におき、1カ月後に長さを1mに玉切り、接種を行なった。所定時期を経過後、剥皮して、種菌の活着と菌糸のまん延状態を調べて接種時期の適否を検討した。また接種時期の期間については、伐採後15日、30日、60日後に玉切りして、それぞれの日に接種をおこない、4カ月後に剥皮してホダ付き状態で比較した。

3. 結果と考察

伐採時期による原木の含水率は、クスギは表一1のとおり11月から翌年3月まで58~61%で4月から63~73%になった。これに対し、コジイでは10月から翌年2月まで110~112%で3月から119~121%となり、コジイは各時期とも、クスギより著しく含水率が多かった。

接種時期：クスギ原木の種菌の活着は図一1のとおり12月から翌年5月接種まで各月とも大差ないが、ホダ付きは11~12月伐採して、12月~翌年1月に接種したものが害菌の被害がなく良好であった。その後は接



図一1 原木の伐採、接種時期とシイタケ菌の活着、まん延および害菌との関係 (剥皮調査, S, 45, 7~9月)

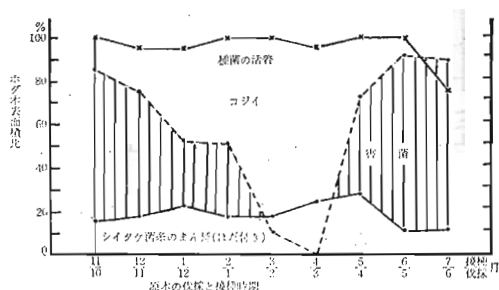
表一1 原木樹種の伐採時期と含水率(%)

樹種	含水率 区分	伐採時期									
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
コジイ	乾量	110	114	112	111	109	119	120	113	121	
	湿量	52	53	53	53	52	54	54	53	55	
クスギ	乾量	—	58	61	61	59	59	63	73	70	
	湿量	—	37	38	38	37	37	39	42	41	

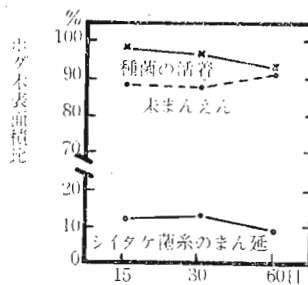
(注) 林齢 クスギ15年・コジイ18年
含水量測定日 毎月10日

種時期が遅れるにしたがい次第に害菌の被害（主にクロコブタケ、ダイダイタケ、ウロコタケ、カワラタケ等）が増加し、すなわち害菌の被害率は5月接種区では56%、6月接種区では84%となり、ホダ付きが著しく不良となってくる。

コジイ原木は、種菌の活着は11月から翌年5月ごろまで各月ともよく活着するが、ホダ付きは、2～3月に伐採して3～4月に接種したものが、害菌の被害がなく良好であった。2月以前と5月以後の接種は害菌の被害（主にクロコブタケ、スエヒロタケ、カワラタケ、カイガラタケおよびオオボタンタケ等）が多く、ホダ付きの望みがなくなる。（図一2）したがって接



図一2 原木の伐採、接種時期とシイタケ菌の活着、まん延および害菌発生（剥皮調査，S, 45, 7～9月）



原木伐採日から接種までの期間

図一3 原木の伐採日から接種までの期間と種菌のホダ付き

種の適期は、害菌の被害のみから考察すればクヌギは12月～翌年1月で、コジイは3～4月が接種の適期といえよう。

またコジイの接種適期の期間は図一3のとおりコジイは伐採後15～30日の間で接種したものが良好で、その後は日数の経過にともない不良となる。したがってコジイ原木に接種する期間は、クヌギ、コナラより短く、伐採15日後から30日内外であることが指摘されるので、接種は、この時期を失しないようにすることが必要であると考えらる。

*温水ほか2 コジイ原木の含水率とホダ付き
日林九支研論 23. 1969

108. シイタケ原木の含水率の変化と種菌接種の適期について

林業試験場九州支場 ○久保田 暢子
温水 竹 則

1. まえがき

シイタケ原木の適期伐採とその後の乾燥および接種時期を究明するためにシイタケ菌糸の発育に必要な原木の含水率の変化および重量減少率では、どのくらいになるかをクヌギとコジイ原木について調査した。

2. 試験方法

供試木は（熊本県益城郡益城町）の15年生クヌギと林試九州支場実験林内の18年生コジイで、クヌギは昭和44年11月26日、コジイは45年1月20日伐採し、伐倒したまま枝条着きと枝条をとり除いたものおよび玉切

りしたものの3種の含水率の変化をしらべた。玉切り原木は長さを1mに玉切り、中央直径7, 10, 14cmの3区に分け、それぞれを同上実験林内ホダ場の日陰地と日照地におき、所定の経過日数ごとに含水率と重量減少率を測定した。なお玉切り原木は日陰地に直径15cmの丸太をしき、日照地では伐倒木乾燥の樹幹の高さから考えて、高さ60cmの横木をとりつけ、その上に一列にならべておいた。枝条着きと枝条除去についてはクヌギは伐採跡地、コジイは照度1,000ルクス内外の林内陰地におき、所定期にそれぞれの伐倒木から試料を取り含水率を測定した。含水率は、絶乾法によ